

「GFTN Forum Japan」基調講演  
金融庁・有泉秀金融国際審議官  
2025年3月6日（木）

- 皆さん、こんばんは。金融庁金融国際審議官の有泉です。まず初めに、ここまでの盛会にお喜び申し上げるとともに、本日はGFTN Forum JapanのKeynoteの機会を頂き、誠にありがとうございます。
- 今朝、ニューヨークから帰ってきたところですが、“Global Leaders Dialogue”, “Digital Assets Summit”, “Asset Management Forum”などの開催を通じて、先進的なトピックについて建設的で示唆に富んだ議論がされてきたと聞いております。こうした議論には、金融庁職員も多く参加させていただき、幅広いステークホルダーの方々と議論させていただきました。GFTNの広範なネットワークによって実現したものであり、改めてGFTNの皆様へ感謝申し上げます。
- AIやデジタル資産について触れる前に、1つお話を共有させていただきます。AIは近頃非常に進歩しており、将来を予測することさえできると言われています。本日のスピーチはAIに作成を依頼しましたが、すぐに500ページの文書が戻ってきました。勝手ながら、皆様にわかりやすく伝えるために私が要約しましたが、AIに要約してもらうべきだったかもしれません。
- 私からは、国際的な規制の視点も交えつつ、AIやデジタル資産などの主要トピックに関してお話しさせていただきます。

<AI>

- まず、AIについてです。生成AIの急速な進展と普及に伴い、FSBやIOSCO、BCBS、IAISといった基準設定主体においても、

AI の implication を評価するため、多くの時間を割いて議論しています。それらの機関はリスクへの対応を中心に議論していますが、イノベーションの重要性も強調しています。金融機関にとって、AI とそのデータの蓄積は、顧客サービスの向上やリスク管理の高度化への活用可能性があり、金融機関の中長期的な競争力に大きな影響を及ぼすものになるでしょう。

- 金融庁としても、AI の健全かつ積極的な活用を力強く後押ししています。そのためには、我々がイノベーションの最前線に立ち、技術的進歩や金融機関における利用実態を理解した上で、適切な政策判断を行うことが必要です。
- このため、我々が実施した包括的な調査に基づいた、ディスカッション・ペーパーを公表したところです。
- その内容の一部をご紹介しますと、文章の要約や翻訳といった、相対的に導入が容易な汎用的な生成 AI のユースケースについては、導入済みの金融機関等が既に 7 割を超えています。他方で、社内データ等を組み合わせ、業務プロセスに特化させたより発展的な AI を導入している金融機関はまだ限定的です。説明可能性やバイアス、ハルシネーション、個人情報保護等、直面するリスクを慎重に評価している様子が伺えました。
- こうした金融機関への支援として、既存の制度でも、「規制のサンドボックス制度」や、日本版セーフハーバー条項の提供といった、規制の適用範囲が不明確だと感じられた際に関係省庁に照会できる制度もあります。さらに、金融庁としても金融機関が AI を安全かつ安心して活用できるよう、ルールや規制の明確化等を通じて金融機関を支援していく方針であり、先進的な AI ソリューションをお持ちの海外事業者の皆様にとって、日本は魅力的な市場だと言えるでしょう。
- また、グローバルで展開する金融機関にとって、国際的な規制のハーモナイゼーションは規制対応のコストを削減し、円滑な業務運営を可能にします。金融庁としては、引き続きそ

の重要性を主張するとともに、FSB や基準設定主体において規制のハーモナイゼーションや市場の分断化の回避に向けて、主導的役割を果たしていきます。

#### < デジタル資産 (Web3.0) >

- 次は、デジタル資産についてです。
- 暗号資産やステーブルコイン、デジタル証券などに関して、日本ではこれまでに学んだ教訓を反映し、既に包括的な規制フレームワークが整っています。
- 市場関係者の間では、我が国の暗号資産規制が厳しすぎるのではないかと指摘も聞かれています。FTX などのインシデントへの対応において日本の枠組みは効果的に機能しました。欧州を含む多くの法域において、日本と同様の規制要件が採用されつつあります。
- 世界に先駆けて暗号資産規制を導入した日本には、規制監督上の多くの経験があります。規制導入や強化を進める法域も数多くあり、グローバルな暗号資産規制の実現に向けて、日本として大きな役割を果たすことができます。FSB や IOSCO、FATF といった場における議論をリードし、本質的にクロスボーダーである、暗号資産・ステーブルコインの国際的な枠組みの構築に取り組んでいきます。

#### < 金融のデジタル化を主導する金融庁に >

- 資産運用やサステナブルファイナンス、クロスボーダー送金などの分野を含め、金融庁の主要施策を発展させていく上で、テクノロジーの活用は重要です。
- 現在ここにいらっしゃる方々を含め、海外からお越しの金融機関や事業者、起業家、投資家の皆様にとって、いずれの領域においても、日本におけるビジネス機会は大きいと考えています。

- 日本は保守的だと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、私はそうではないと考えており、健全なイノベーションをもたらしてくれる事業者の市場参入を大いに歓迎します。本フォーラムにも出展させて頂いた、金融庁の Fintech サポートデスクは、One-stop の Consultation desk であり、日本におけるビジネスに関するご相談にお応えしています。出張相談を利用されなかった方も、ご相談をお待ちしておりますので、是非お気軽にお問い合わせください。
- 今まで申し上げた金融庁の取組は、「賃上げと投資が牽引する成長型経済」の実現を目指す政府全体の方針に沿ったものです。イノベーションが常に生み出される土壌を提供することが、日本経済の成長の基盤となることを強調したいと思います。
- 政府としても DX（デジタル・トランスフォーメーション）を切り口として、日本の潜在的な強みである AI、量子等の戦略分野のイノベーションとスタートアップの支援、スキル向上などの人への投資を進めることを表明しています。AI・半導体分野には、2030 年度までに 10 兆円以上の公的支援を行うことも明らかにしています。
- 金融庁としても、こうした政府全体の方針に沿って、率先して金融セクターのデジタル化を主導していく決意です。健全な競争を促進し、日本においてより多くのビジネス機会とより良いサービスをもたらすような国内外からの新規参入を歓迎しています。

#### <おわりに>

- 最後となりますが、今年行われた議論が今後のフィンテックの発展に資するものであること、また、来年も皆様方とこうしてお会いできることを祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。